

## 私たちがやはり、「合成の誤謬」から抜け出せないのか？

岩波新書の伊藤宣広著『ケインズ 危機の時代の実践家』の、帯にある言葉に引かれて読みました。

ミクロ的に合理的でも、マクロ的に正しいとは限らない「合成の誤謬」となる政治的決断に、ケインズは抗い続けて、名著『雇用・利子および貨幣の一般理論』の誕生に至ったと述べられています。

### 「合成の誤謬」の例

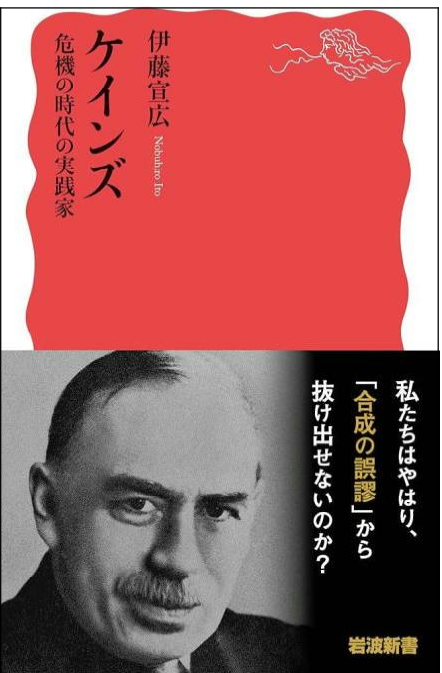
「合成の誤謬」の例として考えられるのは、企業が利益追求のために、人件費を節約して非正規雇用を増やすという「合理的」行動をとると、社会の購買力は低下してしまう。

人々が、将来に不安を抱き、節約をするという「合理的」行動をとると、需要は低下して経済は停滞する。

こうしたことが上げられます。

### 目先の利益優先

経済の常識として、誰もが納得する理屈ですが、現実には雇用の規制緩和で、日本は働く人の4割を非正規に



してしまいました。実質賃金は、この30年間にアメリカなど先進国は1・48倍、日本は1・03倍と、先進国で唯一、「賃金が上がらない国」となりました。

国民は社会保障や教育の分野で、負担増と給付削減が繰り返されたため、将来不安を抱き、結婚も子育てでもできません。

その一方で、大企業の内部留保はこの10年間で180兆円近くふえ、510兆円にも膨れ上がりました。

大企業が利益を増やしても、法人税を減税し続け、内部留保に滞留し、日本経済のまともな成長ができません。

自民党政治のもとで「失われた30年」とな

って、暮らしの困難が続いているところに、いま物価高騰が襲いかかっています（日本共

産党の経済再生プランから）。

目先の利益優先の政治と経済は、ケインズの「合成の誤謬」の結果のようです。

### 「小中一貫教育」

「合成の誤謬」から、「小中一貫教育」について考えます。

少子化で児童生徒数が少なくなっているから、小・中学校を一つにまとめてしまえば「合理的」だ。

義務教育学校だと、建設費の国の補助が1/3から1/2に増え、「過疎債」も使えて財政的にも有利だ。

こうしたことから、2000年の広島県呉市から「小中一貫校」が始まり、全国に広がりました。

それが、鶴岡市でも、藤島中学校の改築を契機に検討されています。マクロ的にはどうか。

## 追悼 太田榮市さんを悼む

鈴木重雄(八色木)



勸君金屈厄

満酌不須辭

花發多風雨

人生足別離

君に勧める金屈厄（きんくつし）

満酌（まんしゃく）辞

するを須（もち）いず

花発（ひら）けば風雨

多く

人生別離足（おお）し

中国の詩人 于武陵（うぶりよう）『勸酒（かんしゅ）』（五言絶句）である。

私は今、貴方の在りし日を思い、人生の別れを惜しんでいる。

貴方は、元藤島町長太田伝内家の歟頭として農業に専念し、昭和30年4月、藤島農業改良普及所主催の馬耕競技会で、1等賞を受賞したほどの技術の持ち主であった。

当時は、消防団や農協青年部などの組織活動に励み、やがて政治の道に志し、加藤康郎革新町政を誕生させた大功労者であった。藤島町議会議長として町政発展に努力され、

「初志貫徹」の人であった。

昭和37年（1962）から開始された農業構造改善事業で、自立経営農家の育成と生産性の向上をめざし、須走に畜産団地の造成や、藤岡にライスセンター建設を先駆的に取り組まれ、現在に至っている。

農業の一線から退いた時は、いかにも残念であったようだが、金魚の飼育はずっとやっておられ、庄内でも重要な役割を果たしたと思う。

高齢になって、老人クラブや東田川文化記念館郷土研究サークル会長など、文化活動にも大変ご苦労された。趣味の彫刻、篆刻は後世の宝であると確信している。

友人ら3、4人で、野山をドライブで楽しんだ事は忘れられない。元氣だった貴方が病魔におそわれ、5月29日の夜に、帰らぬ人となったことは悔やまれてならない。

仏門に入り花咲き鳥笑う冥土の世界で、心安らかに過ごされることを祈念し、追悼の辞と致します。

地域と学校の協働の力は弱くなる。

地域や家庭における子どもの生活台と、学校が遠くなり、教育の本質はどうなるか？

中学の先生の負担が

大きくなり敬遠される。

子どもがいない地域になり、人口が少なくなると、3つの小学校と一つの中学校を守っている三川町に、移り住むのでは・・・。

## 故太田榮市氏への弔意

加藤敏一君から貴兄の訃報が届きました。

突然のことで驚き、悲しみの心押し殺しつつ、ご生前を偲びつ哀悼の意を申し上げます。

顧みますと、貴兄との付き合いは、今から三十年ほど前、郷研サークル結成と同時でした。

貴兄はこれまでの社会的実績から二代目会長、私は万年監事でした。真摯な学習あり、打ち解けた談笑あり、和ませる美酒ありで、まさに談論風発のサークルで、再度の溢れる老春を経験しました。とりわけ一泊と学びの旅は典型的でした。

七年前、教え子を中心に人生の友が集まり、「生前葬」を行い、同日に『地域と共に八十五年―世のため人のため』を発行しました。その時「発刊に寄せて」の寄稿をお願いしました。一部を引用し、こう述べられました。

二十数年の高齢で「やつと藤島人になれた」とあるが、これが本当のお前だ、同じ藤島人として嬉しいということ、事あるごとに言っておられました。

数年前、諸事情から藤島を去らざるを得ませんでした。ところが藤島が附いてくるのです。昨年、旧東田川郡役所・郡会議事堂など一帯が国指定史跡にな

りました。十数年前、文化庁の依頼で初めて調査に関わってきた者として、側面からでも支援しなければと調査しています。

山形市に居住しての利点―県立図書館があるなどもあります。それが現地藤島まではいけません。それで居住者に大迷惑もかけなく過ごし助かっています。

どうしても、ご遺族の皆さんにも、お礼し感謝しておかねばならないことがあります。

それは他所にはなかったことで、ご自宅に限りなく朝な夕なにお伺いしたことです。

縁側に腰掛け、貴兄が手塩にかけて手入れされている、庭を眺めながらのひと時は、なんともいえない心境に浸らせて戴きました。

深謝させていただきます。

白寿の標も、時には見え隠れする月日をお互い過ぎ過ぎてきました。「いずれや先」などと思いつながら。残念にも貴兄が先立たれることになり、悲しみは尽きません。

貴兄が志した良き藤島への道を歩みます。

溜まった疲れを癒し安らかにお休み下さい。

二〇二四年六月七日  
山形市東志戸田 青山 崇



青山崇氏(左)と太田榮市氏(2010年10月)

## 東田川史跡物語 政府も建立に関係か

青山 崇

推察になる。資料を

探す以外にない。可能

性が高いのは、宮内庁

書陵部皇雲閣係資料保

管であろう。そこに勤

務の大学同専攻日君が

いたが10年ほど前に他

界した。職場結婚した

奥さんは年にしては丈

夫だ。この伝手で行こ

うと思ったりしている。

建立は巡幸後7年ほ

どで、県内では1年前

の東置賜郡役所(建物は無

い)など2・3碑に次

ぐものである。

ここも篆額は熾仁親

王、撰文は宮内文学従

五位川田順、書は内閣

大書記官従五位金井之

恭ら太政官高官である。

刻字者が見えないこ

とは地元の石工だから

だろう。

碑文の要点は、巡幸

行列が、赤湯から米沢

に直行するのでなく、高島を通ることで、悪路が改良されることの喜びつであった。

当碑文と比較すると、題字揮毫は同じ人、撰文、書も同格と思われる。

違うのは、郡民の喜びと刻字者の名前の有無である。

おそらく政府は、当郡の巡幸が、基本目的である天皇と郡民の融合が進み、目的が達成されたと見たのである。

政府も関係する建立



### 国民の意思表示は

先日、役場を卒業した者の集まりがあった。つまりは、地域にお住いの皆さんの税金から給料を頂き、年金で暮らしている人たちの総会が、ぽつぽつの湯であったのです。

▲年金を貰っている者の集まりのほが、退職しても年金を貰っていない人が何人もいたんでした。この会と一緒に飲む事に問題はな

いんだがサ。そう、今は定年になって退職しても、年金が貰えないんだワ、長い人で5年も

もなんだつてヨ。▲60歳定年で年金額は決まる。何故か? 定年だから役職も無くなり、給料はグツと下がるんだ。長い人で5年も年

金を掛け続けても下がった給料で年金を計算したら、年金額は減る事になるからだ。▲ま

の契機は、この巡幸成功と、政府高官と三島・折田両県令で話が進んでいたのであろう。

三島は内務省工事課長・警視總監など、折田は北海道開拓使大書記、内務省書記官、三島の後任として警視總監など。同じ薩摩藩士であることから密な関係で2人が非公式に建

立要請をしたのではな

いか。また折田と郡長石井も開拓使務めで親密な

関係であったとも考えられよう。(つづく)

んだから貰える年齢まで同じ職場で給料が貰えるのは良い事としても、新陳代謝の為に、国民の反対を押し切

って決めた定年制。新陳代謝は進まない事に。▲定年になっても当然

今の職場に居ると考える人事担当。定年にな

ったら新しい仕事をと

考えていた定年者。辞められると困る、言われた話もあったとか。

▲しかし、変な制度だヨ。ペテランを無理に

安く使うんだから。現役の労働者は何も抵抗はしていないみたい。だったら、国のやり方にOKを与えている事になるんだ。だから、決まった年金額。貰わないいうちからマクロスライドで年金額は減っているんじゃないの? ▲全国的な問題だからこんな時、ヨーロッパじゃストライキがあったでしょ。日本には音頭をとる労働組合はないしネ。(石川)